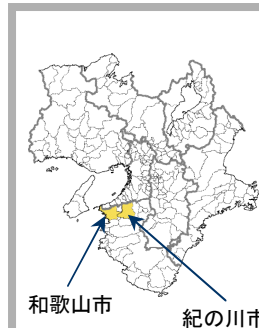


和歌山市・紀の川市(和歌山県):和歌山電鐵貴志川線

地域の取り組みと事業者の公募で存続した地方鉄道

人口	375,591 人 (和歌山市) 67,862 人 (紀の川市)	モード	鉄軌道
面積	209.23 km ² (和歌山市) 228.54 km ² (紀の川市)	法令	—
人口密度	1,795.11 人/km ² (和歌山市) 296.93 人/km ² (紀の川市)	運営主体	和歌山電鐵



■ 取組の背景

事業者から廃止の申し出

【公共交通の利用者減少】【事業者から廃止の申し出】

- ・ 和歌山電鐵貴志川線は、和歌山駅(和歌山市)から貴志駅(紀の川市)を結ぶ路線長14.3kmの路線である。
- ・ 同線はもともと南海電気鉄道(南海)貴志川線として運行されていた。
- ・ 利用者数のピークは昭和49年度の361万人であった。その後利用者が減少し、南海は貴志川線で年間約5億円の赤字を計上(平成15年度)するに至り、平成16年8月、南海は貴志川線からの撤退を表明した。

活用メニュー(制度・協議会等)

【都道府県の補助(鉄軌道)】

- ・ 和歌山県および沿線2市町(当時)による財政支援により存続されることとなった。

■ 実現したサービス

取組み内容

【他主体連携】【車両の更新】

➤ 存続までの取組み

- ・ 「貴志川線の未来を“つくる”会」をはじめとした地域住民等の存続に向けた熱意を受け、和歌山県、和歌山市、貴志川町(現紀の川市)は貴志川線存続のための取組みを行うこととした。
- ・ まず県は事業継続に必要な初期投資として2市町(当時)が取得する鉄道用地費を全額負担した。また将来実施される予定の変電所の大規模修繕費も負担することとなった。
- ・ 一方、2市町(当時)は10年間の運営支援資金を負担することとなった。
- ・ これらの費用負担を前提に、運行事業者が公募された。9事業者から応募があり、岡山電気軌道が選定された。
- ・ その後、岡山電気軌道の100%出資による和歌山電鐵が設立されるとともに、鉄道用地は2市町(当時)から無償貸与、それ以外の鉄道資産については南海から無償譲渡され、平成18年4月から運行開始された。

➤ 存続後の取組み

- ・ 和歌山電鐵運行開始後は、和歌山電鐵・県・2市・学校・住民団体・商工会等で組織される「貴志川線運営委員会」で利用促進策が協議されている。
- ・ 平成18年8月、沿線でいちごが取れることから、運行する電車をいちごに見立て、車両にいちごのデザインを施した「いちご電車」の運行が開始された。列車改装にかかる資金調達のため1口1,000円のサポーターを募集した結果、およそ1,100万円の寄付金が集まった。
- ・ 平成19年1月、貴志駅の売店の猫「たま」を駅長に任命したところ、全国的にメディアに取り上げられることとなった。
- ・ 平成19年7月、車内におもちゃが展示され子供が楽しむことのできる「おもちゃ電車」が運行開始。

■ 効果と負担

効果

【利用者数の増加】

- ・ 平成 18 年度の利用者数は 211.4 万人(前年度比 10%増)であった。

負担

【市町村負担】【都道府県負担】

- ・ 県は鉄道用地費 2.3 億円、将来実施予定の変電所の大規模修繕費 2.4 億円を上限に負担。市町は 10 年間の運営支援資金として 10 年間で 8.2 億円を上限に負担。

■ プロセスと調整

住民による存続運動のメディアへの取上げ

【プロセス:体制構築】

- ・ 南海による貴志川線の廃止検討の表明後、沿線市民組織が存続運動を行っていた。
- ・ その活動が、NHK 総合テレビ「難問解決！ご近所の底力」において報道され、番組に出演した旧貴志川町の長山団地住民が中心となり、「貴志川線の未来を“つくる”会」が正式に発足した。番組の影響もあり同会の会員数が増え、活動が活発化していった。

費用対効果分析の実施

【プロセス:現状把握】

- ・ 「貴志川線の未来を“つくる”会」のメンバーの学識者により、貴志川線存続の費用対効果分析が行われた。一般的に費用対効果分析は行政主導で企画され、コンサルタント等に委託して実施される。これに対して貴志川線の例では、企画の段階から並行道路交通量等の基礎データの取得、結果の分析、報告書の公表に至る全過程が地域住民参加型・原則公開のもとで実施された。
- ・ 分析の結果、貴志川線存続による単年度の社会的便益額は、廃線後のバス転換率が約 46%のケースと比較して約 14.8 億円と推定された。

■ 創意工夫・知見・教訓

鉄道事業者の公募

【創意工夫:運営の工夫】

- ・ 大手私鉄によって運営が不可能となった路線について、地域の支援を前提に運営事業者を公募した珍しい事例である。
- ・ その結果、県外の事業者である岡山電気軌道が地域支援のもと運行を担うこととなった。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：和歌山県企画部地域振興局総合交通政策課 電話 073-441-2353

和歌山市総務局企画部交通政策課 電話 073-435-1016

紀の川市企画部政策調整課 電話 0736-77-0815

和歌山電鐵総務課 電話 073-478-0110

参考 URL：和歌山電鐵 <http://www.wakayama-dentetsu.co.jp/>

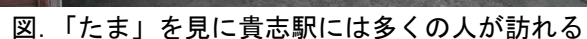
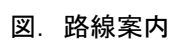


図. 猫を駅長に任命
出典：和歌山電鐵ホームページ

■ 資料編



図. いちご電車の内装

出典：和歌山電鐵ホームページ



図. おもちゃ電車

出典：和歌山電鐵



図. おもちゃ電車の内装